

9月1日(土) 日華化学前・ハツ島(えち鉄三国芦原線) 新駅開業



ハツ島

2007.7.13現在



日華化学前

駅名	日華化学前	ハツ島
運賃(乗降券まで)	200円	220円
所要時間(乗降券まで)	約13分	約14分
駅のおもてなし	無人駅	無人駅

*9月1日は、開業記念式典を行います

「えちてつサポーターズクラブ」会報誌より転載

活動報告

- 6月20日 交通倶楽部ゆうらん 松本氏との懇談
- 23日 第2回カーフリーデー実行委員会
- 6月26日 第1回まちづくりフェア実行委員会
- 7月4日 第2回このまちと~まれ実行委員会
- 7月7日 第2回北陸連携並行在来線活用市民会議準備会
- 8日 第8回自転車部会
- 14日 第9回自転車部会
- 14日 第3回カーフリーデー実行委員会
- 15~16日 全国まちづくり会議(東京)
- 18日 第3回このまちと~まれ実行委員会
- 20日 ROBA7月例会

今後の予定

- 7月21日(土) 第3回北陸連携並行在来線活用市民会議準備会
- 7月23日(月) 日弁連 針原氏のヒアリング
- 27日(金) 全軌協との意見交換会(東京)
- 28日(土) さばえ環境フェア
- 8月7日(火) 第4回このまちと~まれ実行委員会
- 10日(金) まちづくりフェア 打合せ会
- 19日(日) 第4回カーフリーデー実行委員会
- 第10回自転車部会
- 24日(金) ROBA例会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

「まちづくりと景観」 田村明著

岩波新書740円+税 ISBN4-00-430985-9 C0236

横浜市を始め、長年まちづくりに携わってきた田村明さんの景観論です。戦後復興期から経済効率優先でまちづくりが行われてきた日本の都市政策への批判はもちろん、景観は建物の並びだけではなく、そこに住む人のつながりが細部を規定していること、お上の都市計画でなく市民のまちづくり意識が必要なことなど、独自の広い視点から論理が展開されています。

最終章に「美しい都市景観づくりのための19原則」というのが掲げられていて、「20番目は各地域で追加してゆこう」と締めくくられているところが心にくい。

(財)国土技術研究センター調査第3部長 美濃部 雄人 Minobe Yujin

明日の金沢の交通を考える市民会議の平成18年度活動報告会に参加して

高橋 八州太郎

平成19年6月23日(土)午後2時より3時半まで標記会合の内容についてご報告します。

昨年の出席について2回目になります。代表曰く、10年前に金沢市の肝入りで設立した団体ですが、2年目から自主的な活動を続けて来年で10周年になるとのこと。昨年とは違った(発表内容等)がした。行政よりの研究をしているかと思うとそうでもないようで、きちんと「市民」の立場から発言している名との印象を受けた。なお、本会議には清水理事も参加されてました。発表項目は1『山側環状』全線開通後の利用実態調査と課題 調査報告、2『横断歩道の安全性』調査 調査報告、3『高齢社会へ向けての交通手段に関する調査』1次調査報告、4『望ましいバス停のモデルデザイン提案』調査報告(報告省略)5『ルール&サイクルトレイン能登島』(報告省略)の5つです。

1の『山側環状』全線開通は昨年の4月のこと。このときも開通後4ヶ月であったがアンケート調査を実施、今回は利用者を対象にアンケートを200名の方にアンケートを実施。利用者のアンケートの中で「中心市街地の渋滞」について緩和されたと感じた方が約61%、変わらないが34%、逆に「悪くなった」は1%であり、中心部への通過交通の迂回させる交通政策は一応は果たせたと感じた。一方、課題の中で「中心市街地」の空洞化への懸念があるが38%、中心部への交通手段をクルマ依存とする体質はまだ変わっていない。また、中心部を結ぶ公共交通の整備が必要との認識を持つ方も17%もいるという結果もあるのに少し希望が持てたような気がする。

2『横断歩道の安全性』調査は、昨年の調査に続き2年目となるこの調査は ゆとりをもって渡ることができるか、横断歩道の幅員、横断歩道、歩道と横断歩道の段差、横断歩道付近の障害物はないか、横断歩道橋及び地下道の安全性の6項目について調査をしている。今回の調査範囲は「犀川」の西側を中心に実施。調査で青信号(世界標準は緑)の点滅時間の短さを指摘していた。点滅は注意して横断する認識だが2車線でも3~4秒で黄色信号となり、高齢者では渡りきれないのではないかと指摘があった。(参考に80mで1分という不動産関係の資料からすると、3~4秒は1.3m/秒×3~47m、これは普通の方、高齢者はもっと遅いということは…)

3『高齢社会へ向けての交通手段に関する調査』については、大変興味深く聞く事ができた。背景に高齢者が引き起こす交通事故の増加、地球環境温暖化の問題の観点から「公共交通へ移動手段の転換」を呼びかけているが、個人の意識がなかなか変わらない…その背景を探ろうということを目的としたアンケートである。

まず、市内の居住地(まちなか、内中環状、外環状、郊外)の違う50代以上の方からのアンケートで総数178、男性65、女性108(不明5)でクルマを運手する方としない方に分けて質問を変えている。

特徴的だったのは、クルマを運転する方の理由の1番目に「気軽に便利」80%、3番目に49%が「公共交通が不便」を挙げている。更に地域別に見ると「まちなか」では44ポイントなのに郊外部では76ポイントと圧倒的に高い。クルマを運転して不安を感じるかとの質問で「事故の危険」が68%、「高齢時の不安」が61%が次いで多い。更にこれを地域的にみると、「まちなか」では50%であるのに対して「郊外」では84%と非常に多くの方が不安を感じている。そして、公共交通を便利にするには、の問いには本数を増やす、定刻どおりの運行、運賃値下げ、高齢者、障害者への配慮となり、「快適なバス停」や「バス停増設」、「快適な車内」等の順に意見が多かった。

次にクルマを運転しない方のアンケートを見ると、マイカー中心の社会にどのような弊害を感じているかとの問いに「交通事故多発」、「大気汚染」、「マナーモラルの低下」について「公共交通の衰退」が挙げられていた。「公共交通の衰退」について地域区分で見ると、「まちなか」より、「外環状」、「郊外」に居住されているの方が多かったのは意外であった。高齢者が自由に移動できる社会にするためにはどのような環境の整備が必要かとの問いに、「公共交通の整備・充実」が最も多く、次いで「歩道・横断歩道の整備」、「福祉タクシーなどの充実」、「歩行者優先のまちづくり」、「自転車道の整備」の順になっている。また、この順序は免許保有者もほぼ同じ順序で回答がなされている。

最後に以下のような質疑応答がなされた。「市」の反応はどうか?との質疑に「議員」を通じて市政に反映されている。例えば武蔵ヶ辻のバス停が仮設ではあるが、民地内にあり歩道がいつもより広く使えているなどの小さいが実績を挙げていることが報告された。質疑応答後閉会となり、その後は会としての「通常総会」が開催された。

6月30日(土)JR越美北線が全線開通

福井豪雨から3年ぶりに全線復旧したJR越美北線に塚谷レポーターを派遣し、写真を撮っていただきました。またROBA会員でもあります坂川市長から、水野会員経由でROBAにメッセージをいただきましたのでご紹介します。



豪雨で流出後再建された一乗谷駅近くの鉄橋



列車発車に合わせてくすだま割りとテープカット



再建された鉄橋を渡る越前大野方面行き列車



復旧を祝って設けられた屋台(地元農産物)

越美北線はこれからがスタートです。私が北陸新幹線関係都市連絡協議会 43 市の会長を引き受けたのは、今年、数年ぶりの「新幹線基本スキーム見直し」の機を逃すような事になれば、関東以外で唯一空港も新幹線も無い全国高速交通ネットワーク空白地帯状態からの脱却のチャンスを失うばかりか、2014年の富山・金沢開業は既定の事実なので、都市間競争で更に遅れをとることになるという危機感からなのです。

市町村の場合、財政的には負担金より開業後入ってくる固定資産税収入の方が大きい上、開業後の経済効果による税収増で、反対派の言う「市民負担の方が大きい」は全く当たらないのですが、ただ、並行在来線と枝線の存続という課題があります。越美北線はこの「枝線」なのです。市としてもROBAなど市民団体とのスクラムで、乗客増、ひいては存続への道筋をつけるよう頑張りますので、是非ご協力の程宜しくお願いします。

ROBA 会員 福井市長 坂川優

全国都市再生まちづくり会議2007で衝撃走る

～ ROBAが「奨励賞」をいただきました ～ 高橋、林ひ、青木、佐々木、寺内、堀
全まち会議2007は何かとハプニングの多い会議でした。初日の15日は、台風で新幹線が止まり、高橋事務局長が名古屋で5時間の足止めをくらって遅れてしまいました。二日目の16日は、10時15分ごろの各交流会で発表の途中、大きな揺れが発生し5分ほども揺れ、会場が28Fであったこともあり、いつまでもゆらゆらと揺れていました。同時にエレベーターが止まりました。わたしは、早朝4時55分の快速で福井を発ったため会場に入っていて、この以上に長い揺れを体験しましたが、当初予定の6時の特急でしたら、1階で足止めを食らって交流会に参加できなかったところです。

前日もROBAのブースに参加してくれた東京の戸田さんは、そのときエレベーターに乗っていて13階で自動停止したため、同じく乗り合わせた8人の方たちと会場の28階まで励ましあいながら歩いて上ったそうです。

「交流会3 まちづくりニューウエーブ」は13団体が発表し、ROBAは高橋事務局長が8番目に発表しました。福井ではROBAから始まった都市再生モデル調査が、田原町デザイン会議、あわらーとの会へとつながり、展開していることを紹介しました。

この交流会ではコーディネーターを勤めたRACDAの岡さんが提起した、四つの問いかけに対し、いろいろな活動の悩みや苦勞が報告され、以下のようにまとめられました。

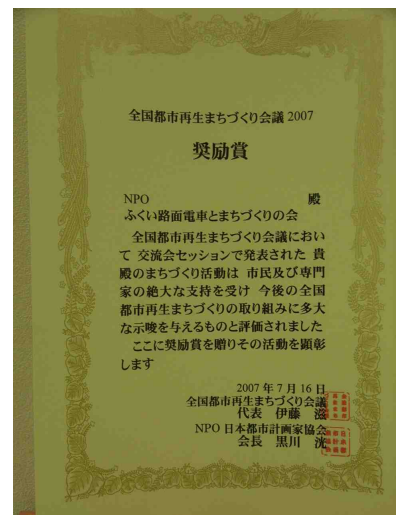
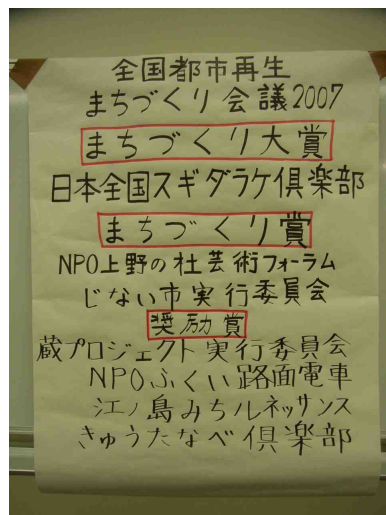
1. 活動のきっかけは？ 「今、ここで、私が」
いつか、どこかで、だれかが、やってくれるだろうでははじまらない
2. どんない仲間？ 抵抗勢力は？
「全てが仲間であり、抵抗勢力」
一番関係する人が反対するが、うまく行けば仲間にもなる
3. 楽しんで参加しているか？ 「苦楽しい」
アートや文化、歴史や祭を活かし、楽しく遊んでいるが、時には苦しい
4. 将来の夢は？ 「夢創作（搜索）中」



各交流会からの報告も終わり、後片付けに席を立とうとした、大会終了間際に再び大衝撃が、走りました。なんとROBAの活動報告が、全国都市再生まちづくり会議2007の奨励賞をうけました。

「ひとつながるまちづくり」が、全国で評価されました。

実りある大会でしたが、台風や地震被災地の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。(林ひ)



ふるさと電車に乗って

詞：内田桂嗣

- 1、 ピンク色した 桜のトンネル抜けると
幼い頃が なつかしい
足羽川に響く 電車の足音
耳を澄ませば 遠くへ流れる
春に走るよ ふるさと電車

 - 2、 みどり溢れた若木を 揺らして走る
海の潮風 淡い初恋
君にささやく 電車の中で
花火の太鼓で 消されて去った
夏に走るよ ふるさと電車

 - 3、 紅く染まる里山に 夕陽が沈む
あの日と同じ 母の面影
元気であるか 稲穂のかおり
いつまでも 待ってておくれ
秋に走るよ ふるさと電車

 - 4、 白い雪の光線 背に受けて
君の姿は 僕を写してる
みんなの夢を 乗せて切符に
いつも一緒だ これからも
冬に走るよ ふるさと電車
- いつも一緒だ これからも
街を走るよ ふるさと電車
つないだ心は ふるさと電車

ROBANEWS 64号の呼びかけに答えて、さっそく内田さんから「ふるさと電車」の詞の投稿がありました。それで、才能豊かな(自我持参 失礼 自画自賛)変集長がさっそくメロディをつけてみました。まだ未完成ですが、試聴してみたい方は連絡ください。メール添付で送ります。(変集長)

ROBA カーフリーデー(9月23日) 企画検討資料

2007.7.14

NO	企画案	その内容	実施場所	実施時間	必要人員	予算	担当	その他
1	電車運賃の減額	えち鉄、福鉄の1日フリー切符運賃を半額	全路線	終日	不要	?	内田	寄付金で対処
2	来街者に対して、自転車安全・マナークイズ	自転車の乗り方や交通ルールをクイズ形式にして、考えてもらう	アップルロード	午前10時から 午後4時	1、2名	1万	塚谷	クイズ案を検討中 クイズに正解の人に景品進呈 (exハンク修理セット)
3	おもしろ自転車展示	業者やその顧客が所有する面白自転車や今どきの自転車を展示	アップルロード	午前10時から 午後4時	1名	無料(謝礼2万程度)	内田	種池のサイサイクルに出張展示依頼
4	自転車無料点検	自転車で来られた方に希望により無料点検実施	アップルロード	午前10時から 午後4時				
5	自転車タクシー	県所有のものを借用、アップルロードガレリア元町であれば運行可能	アップルロード ガレリア元町	午前10時から 午後4時	1名	運送費(2万)	内田	ROBAで運送
6	7人乗り自転車展示(エコ丸くん)	県所有のものを借用、アップルロードガレリア元町であれば運行可能	アップルロード	午前10時から 午後4時	1名	運送費(3万)	内田	業者に運搬依頼
7	交通エコロジー教室	マップの使い方、バスの乗り方教室	エコプラザ4F	午前10時から 午前12時	1、2名	5千	林 博	中部運輸局との協働事業
		1日フリー切符を使って親子で公共交通体験	福井市内	午前10時から 午後4時	1、2名	5千		
		意見交換会	アオッサ(未定)	未定	3、4名	5千		
8	駅前来街者への特典	フリー切符所持者やすまいるバス乗車者に指定店で買物について割引等の特典付与	駅前商店街	終日	不要	0	清水	えち鉄サポーターズ倶楽部&すまいるバス指定店にアプローチ
9	ハル展示	カーフリーデー関連	ガレリア元町	午前10時から 午後4時	1名	5千	清水、高橋	
		LRT関連		午前10時から 午後4時		0	清水	

電車運賃除
予算合計

10万

報告 / 内田

並行在来線研究「市民連合」発足

清水 省吾

去る6月16日と7月7日に金沢の石川県NPO活動支援センター「あいむ」において、北陸のNPO連携による並行在来線の研究会の準備会が開催されました。参加団体は富山県交通政策研究グループ、公共交通とやま市民応援団、RACDA高岡、金沢・LRTと暮らしを考える会、そしてROBAです。今後、新潟県上越市のNPOの参加を実現するとともに、先行的に並行在来線の研究を行い情報発信している富山県交通政策研究グループの研究（同会HP <http://www1.tcnet.ne.jp/kusunoki/koutuken/> を参照下さい）をベースに、連携・協力して、北陸全体での並行在来線・枝線の研究を進めていくことになります。

研究の基本は、要求を目的とするのではなく、住民・利用者の視点からの研究を通して、鉄道として利便性を後退させるのではなく、万葉線、えちぜん鉄道、富山ライトレールでの北陸地方の貴重な経験を活かし、地域が一体で支え、利便性を向上させ、乗客を増やし、最適な形で並行在来線や枝線を再生・活性化するモデル実現を提案するというものです。

また、その前提として、基本的なデータ・理論・技術情報をきっちり押さえた上で、合理的な提案を行うということも確認しています。今後、7月21日、8月11日、9月2日に準備会を開催して前段階の研究を進め、9月17日には富山市において設立総会を行うこととしています。設立総会では福井大学大学院の川上洋司先生に講演をお願いしています。

来春にはアウトプットを出していくことにしています。最終的には、私鉄線（路面電車を含む）やバスも含め、北陸全体での便利かつ先進的な交通体系の実現を目指していきたいと考えています。



自転車タクシー



エコ丸くん

照ちゃんの気になる風景 part 4



田原町商店街の一角・島田橋のたもと

以前から気になっていたのですが、近くの川に住んでいるカモ（名前を調べたのですがよくわからない）に「早く紹介しないとこの建物はもうしばらくで解体しちゃうよ！」と教えられたのでさっそくデジカメで写してきました。

福大生と近所の子供とのコラボだそうでなかなかいいですね。（7月12日に確認しましたところ建物は消えていました）

作 / 漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「原子の炎の近くでの大地震、どこにいればいいのでしょうか」

塚谷(副編集長)

「美山駅で現地農産物、おいしくいただきました」

内田(発行責任者)

「相変わらず、ROBAはスケジュールが多いの！」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: roba@mbh.nifty.com

URL: <http://roba.cocolog.nifty.com/roba/home/>